

『困難の中にあるからこそ』

'20/11/22

聖書箇所:マルコの福音書 5章 21-43節(新約 p.73-)

私たちの人生には、もうどうしようもなくなってしまうようなことが起こり得ます。右を見ても…、左を見ても…、もうどこを向いても進むべき道が見えない…、もうどうして良いか分からない…。皆さんも、そんな風なことを経験されたことがないでしょうか？ そういったような時に、「心の支え」となるような助けがあるかないか？ あるいは、本当に自分が信頼できるような指針…、言い換えれば、「確固とした信念！」とも言い得るようなものがあるかどうか？ で、私たちの歩んでいく道が大きく左右されることがあります。

その人が受ける困難や問題の、あまりの大きさの故に…、ある方は、誘惑に負けて、大きな過ちに陥ってしまうことがあります。また、別の方は、犯罪行為に手を染めてしまうことだってあるかも知れません。また、別のある方は、絶望の末に、自ら死を選んでしまうことさえも、無いとは言いきれませんが…。しかし、それと同じような厳しい困難の中にあっても、別のある方は、真の神様を信じる信仰のゆえに、様々な困難の中にあっても…、それに負けることなく、希望をもって、正しい選択をし続けることができます！

命題: 様々な困難の中にあっても、希望をもって歩んでいくために…

そういうわけで、今日、私たちが学ぼうとしているみことばは、そんな弱い私たちが、どうしたら、様々な困難や襲いかかってくる問題の中で、希望や信念を持ちつつ歩んでいけるのか？ ということを教えてくれるものであると思います。どうぞ、今回の聖書箇所であり、マルコ 5:21-43 をお開きください。願わくは、このみことばを学んでいくことによって、私たちが、ますます、困難というものに対して強くなることができ…、どのような中にあっても、私たちの救い主であられる神様のことを大胆に証しできるようになっていくことを願います。

I・私たちに、**へりくだり**が必要である！(21-24節)

どうぞ、まずは、今日与えられたみことばの内、21-24 節までをご覧ください。このみことばが教えてくれていることは、私たち人間は皆、自分の力ではどうにもできない問題が、たくさん起こり得るような弱い存在である！ ということです。それ故に、私たちに、“へりくだり”というものが必要なのです。まずは、そういったことを、このみことばから確認していきましょう。

21 イエスが舟でまた向こう岸へ渡られると、大ぜいの人の群れがみもとに集まった。イエスは岸べにとどまっておられた。

22 すると、会堂管理者のひとりでヤイロという者が来て、イエスを見て、その足もとにひれ伏し、

23 いっしょけんめい願ってこう言った。「私の小さい娘が死にかけています。どうか、おいでござって、娘の上に御手を置いてやってください。娘が直って、助かるようにしてください。」

24 そこで、イエスは彼といっしょに出かけられたが、多くの群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。

●会堂管理者ヤイロが抱えていた 問題

皆さんは、ここ最近で学んだみことばを覚えてくださっていると思います…。イエス様とその一行は、この少し前、舟でガリラヤ湖を渡って、異邦人の地である『ゲラサ人の地』に一旦、足を踏み入れられましたが、その住民たちから、「どうか、出て行ってください！」と言われたため、もう1度、ガリラヤ湖西側のガリラヤ地方へと戻られました。今日のみことばは、そういったところから始まっています。

どうぞ、21 節をご覧ください。イエス様たちがガリラヤ地方へ戻られると、『大ぜいの人の群れがみもとに集まった。…』とあります。この時のイエス様は、ガリラヤ地方において、まるで、有名人のような扱いを受けていたということが分かります。中でも、イエス様の帰りを心待ちにしていたのは、『ヤイロ』という『会堂管理者』でありました。彼は、イエス様を見るや、「その足もとにひれ伏し、一生懸命願ってこう言います、『私の小さい娘が死にかけています。どうか、おいでござって、娘の上に御手を置いてやってください。娘が直って、助かるようにしてください。』』って…。…というも、42 節に書かれてあるように、彼には、12 歳ぐらいの『ひとり娘』(ルカ 8:42)がいて…、その娘が、今にも死んでしまいそうな状態であったからでした…。

実は、この『会堂管理者』と言いますのは、この当時、どこの町でも存在していた、イスラエルの民たちが集まるための「会堂」…、言わば、集会場兼礼拝堂を管理していた責任者でありました。彼らの仕事は、会堂の維持管理はもちろんのこと、礼拝における司会や、聖書を朗読する箇所を選んだり、説教者を指名したりすることでありました。つまり、彼らは、町の名士であり…、かつ、多くの場合は、裕福でもあったようです。その会堂管理者の、たった1人しかいない娘が死を迎えようとしていたのです！

12 歳と言えば、現代では、中学生になろうかという年齢ですが…、この当時では、もうすぐ、一人前と考えられ…、早ければ、もうあと1年程で結婚もできるような、そんな年齢であります。つまり、この会堂管理者ヤイロは、もうすぐ結婚できるかも知れないほどの…、自分が手塩に掛けてきた娘を今にも失いそうな…、そんな状況にあったのです。そういったことを考えますと、この会堂管理者が、イエス様に会うや否や(?)、イエス様の足もとにひれ伏して、自分の家に来ていただきたいと願った、その時の心中を察することができます。…彼には、もう一刻の猶予も無かったのです…。

●私たち人間が、どうにもできない 問題 とは？

皆さんも、これとは違った状況であっても…、これまでに、様々な困難や苦難を経験してこられたはずですよ！ …そうでしょ？ 例えば、いのちに関する問題や病気に関する問題…、また、仕事や経済的なことに関する問題…、あるいは、いじめや人間関係に関する問題など…。どれもが、決して容易な問題ではなく…、私たち人間が多少頑張ったとしても、なかなか簡単には解決しないような問題ばかりです。…でも、一体どうして、私たちの周りには、こういったような困難が溢れているのでしょうか？

その答えは…、私たち人間が皆、“有限な生き物だから”です！ 私たち人間は、無限の存在であられる神様とは違って、ほとんどのことに限界や失敗があるからです。例えば、今日のみことばを読んで分かる通り、私たちのいのちや健康とは、私たち自身の持ち物ではなく…、神様からの恵みであり、賜物です。だから、私たちは、自分のいのちや健康さえも、自分自身ではコントロールできないのです。ひょっとしたら、私たちは、自分で自分のいのちを絶つことぐらいはできそうに思えるかも知れません。しかし、本当は、それさえも、何か道具を使ったりして、物理的に無理矢理、自分の体を破壊しているからであって…、私たち自身の意志や力でもって、自分のいのちを止めたり…、その逆に、自分のいのちを、神様が与えてくださった寿命以上に、1分1秒でも長らえさせたりすることは叶わないじゃないですか！

それと同じように…、私たちの周りには、この科学万能の時代にあっても、どうしようもないような問題が、それこそゴロゴロ存在しています。しかし、そういったことは至極当然なのであり…、実は、それこそが私たち人間には必要なのです。…と言うのも、実は、そういったことも含めて、神様は、私たちに御自身の存在を教えようとしてくださっているからです。

例えば、どうぞ、皆さん。使徒 17:26-30 をご覧ください。『26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住ませ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とお定めになりました。27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めることでもあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはおられません。28 私たちは、神の中に生き、動き、また存在しているのです。あなたがたのある詩人たちが、『私たちもまたその子孫である』と言

ったとおりです。29 そのように私たちは神の子孫ですから、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えてはいけません。30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。』

⇒ここでは、私たち人間の歩みと言うか…、もっと壮大な人類の歴史について言われています。その人類の歴史を見ているならば…、それは、つまり、あのアダムから始まって…、ノアやアブラハム…、また、イスラエル民族の歴史であり…、そして、何より、イエス・キリストの送られた生涯を見ている時に、彼らの背後におられた神様の存在に気付くはずであります。『確かに、神は、私たちひとりひとりから遠く離れてはられません。』かつて、神は、偶像がもてはやされたような、『無知の時代を見過ごしておられましたが、今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。』と書かれてあります。今、神様は、ここにおられるすべての方々に、悔い改めを命じておられるのです！

それは、あなたが救われることを、神が望んでおられるからです！ 実に、そのために、私たちは、様々な問題を経験しなければならぬのです。だって、私たちは、自分の人生が大きな問題や困難な障害にぶち当たることでもなければ、真剣に、自分の人生について…、あるいは、真の造り主なる神様の存在についても…、考えようとしなないじゃないですか！ 今読んだ、みことばの 27 節でも、『これは、神を求めさせるためであって…』と書かれてあるように、神様が、皆さんのことを、そのように導いてくださっているのです！

ですから、どうぞ、皆さん。思い出してみてください。私たちに解決できない問題なんて、ざらにあります。いえ逆に…、私たちが完全に解決できる問題なんて、実は、そう多くはないのではないのでしょうか？ でも、実は、そういったことを通して、私たちは気付かされていくのです。「自分はなんてちっぽけな存在なのだろう…」。もう、これは、自分の手には負えない。もしも、神様がいらっしゃるなら…」って…。実際、皆さん方の中でも、自分ではどうしようもないような問題を通して、教会へと導かれた方がいらっしますでしょ。

例えば、私の場合も、そうでした。かつて、私は、そう真剣に追い求めたわけでもないのに、「神なんて居ない！」と決めつけておりました。しかし、母親が脳卒中で倒れて…、医者も手の施しようがなくて…、もうどうしようもなくなった時、何度も、何度も…、神様という存在を求め…、そこで、ようやく初めて、神様という存在について真剣に考えるようになった気がします。

どうぞ、皆さん。今日のみことばに戻ってください…。娘を失いかけていた会堂管理者のヤイロは、この時、それこそ必死になって…、イエス様に助けを求めました。だから、彼は、イエス様のことを見て、その足元にひれ伏して…、一生懸命願ったわけなのです。もう、そこには、恥も外聞もありません。自分が、この名士であろうと関係ありません！ …このように、私たち人間には、様々な限界があり…、解決できない問題が、それこそ山のように存在しています。でも、だからこそ、私たちは気付かされるのです、「私には神様が必要だ！ 私は、神様を離れては何もできない！」って…。そうではないでしょうか！

II・私たちに、**信仰**が必要である！（25-34 節）

さて、先程話したような状況で、会堂管理者のヤイロが焦っている時に、また別の出来事が起こってしまいました。それが、今日の2番目のポイントです。次に、私たちが見ていきたいことは、**私たちに人間には、真の神様のことを信じる“信仰”が必要である！**ということ。どうぞ、今度は、今日のみことばの内、25-34 節の部分をご覧ください。

25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。

26 この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまつたが、何の**か**もなく、かえって悪くなる一方であつた。

27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわつた。

28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」と考えていたからである。

29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直つたことを、からだに感じた。

30 イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行つたことに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわつたのですか」と言われた。

31 そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたに押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれがわたしにさわつたのか』とおっしゃるのですか。」

32 イエスは、それをした人を知ろうとして、見回しておられた。

33 女は恐れおののき、自分の身に起こつた事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。

34 そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病氣にかからず、すこやかでいなさい。」

● **長血**をわずらつた女とは？

今回のみことばは、ここ 25 節以降で、ある女性の話に切り替わります…。聖書は、この女性のことを、12 年もの間、『**長血**』…、つまり、女性特有の病気を患っていたという風に説明してくれています。旧約聖書のレビ記 15 章などを見ても、こういったような場合、この女は汚れている…とみなされて、他の人たちに近づくことが許されていませんでした。

今日のみことばの 26 節、『この女は多くの医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまつたが、何の**か**もなく、かえって悪くなる一方であつた。』とあります。つまり、この女性は、たくさん**の**医者のところに行つたのです。そして、彼女は、その治療費のために、自分の全財産を使い果たしてしまうほどでした…。でも、この女性は、その病が癒されないまま、12 年もの時が流れていってしまいました。その苦しみは、どれだけのものであつたでしょう？ 正直、彼女の背負つた苦みがどのようなものであつたのか、現代の私たちには、なかなか想像することさえ難しいと思います。

しかし、この女には、イエス様に対する**信仰**がありました。どうぞ、27-28 節をご覧ください。『27 彼女は、イエスのことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわつた。28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る」と考えていたからである。』⇒このように、この女は、イエス様の着物に触ることによって、自分のことを 12 年間に渡って苦しめてきた病が癒される！と期待していたのです。だから、この女は、本当ならば、行くことが許されていないような、たくさんの人でごつた返している群衆の中を通過して、イエス様に近づきました。そして、彼女の期待通り、その病が一瞬にして癒されました。

● **この女が道を切り開くことができた** 理由

今日のメッセージの前半でも確認しましたように、私たちに、**どうしようもない問題や困難**というべきものが、山ほどあります。それは、この長血を患っていた女性も同じでありました…。彼女は、イエス様にお会いするまでの 12 年間、自分で、散々手を尽くして…、あちこちの医者にかかりましたが、それでも、彼女の病は癒されませんでした。所謂、八方ふさがりであつたのです。でも！ だからこそ、この女は、最後の最後に、イエス様というお方にすがらるべきである…。いえ、イエス様にすがらる以外に道はない！ という方向に導かれたのです。

先程も見ましたように、私たちの人生が、もしも何の問題もなく、順調に運んでいたら、なかなか、私たちは本当の意味でへりくだって、真の神様という御方を探し求めたりはしません。そうではないでしょうか？ 私たちは、自分自身の弱さや罪深さを、イヤというほど思い知るからこそ、自分自身に対する主権を神様に明け渡して…、最も信頼のできる真の神様にこそ、自分の新しい、本当のご主人様になっていただくとするのではないのでしょうか？

良いですか、皆さん…。真の神様に対して主権を明け渡そうとしない信仰は、聖書が教えている本物の信仰ではありません。それは、ヤコブ 2 章で警告されているところの、「知識だけの…、死んでしまった信仰」です。そのような信仰に人を救う力はありません。だから、本物の信仰を持った者は皆、1 番に神様のことを愛し…、1 番に神様を優先して、従っていくのです。

そのような態度は、もちろん、この女性にも見ることができます。どうぞ、33-34 節をご覧ください。『33 女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエスの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。34 そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」』

この時、イエス様は、この女のことに全く気付かなかったのでしょうか？…いいえ、そうではありません…。だから、ここ 33 節にあるように、その女は恐れおののいて、イエス様の前に出てひれ伏し、真実を打ち明けたわけです。実は、この個所の平行記事である、ルカ 8:47 には、『女は、隠しきれないと知って、震えながら進み出て…』と書かれています。つまり、イエス様は分かっておられたのです！…にも関わらず、イエス様からは何もおっしゃいませんでした。それは、この女が自ら名乗り出てくることを待っておられたからです。そして、イエス様の思惑通り、この女が名乗り出て、すべてを打ち明けたわけです。

先程も言いましたように…、この当時の習慣からすると、長血という病気を患った女が、大勢の人たちで、ひしめき合っているような場所に行くというようなことは許されることではありませんでした。恐らく、そういったこともあって、この女性は、自分のことを告白する勇気がなかったのでしょう。でも、それは、信仰を持った者の“正しい態度”ではありません。

皆さん、覚えてくださっていますよね？イエス様は、ゲラサ地方で、悪霊から癒された者に対して、何とおっしゃいました？どうぞ、マルコ 5:18-20 をご覧ください。『18 それでイエスが舟に乗りよとされると、悪霊につかれていた人が、お供をしたいとイエスに願った。19 しかし、お許しにならないで、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」20 そこで、彼は立ち去り、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、デカポリスの地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。』

⇒このように、イエス様は、悪霊から助けられた者に対して、しっかりと説明をするように！と命じられたのです。つまりは、証しです。皆さん、気づいてくださいました？この悪霊を追い出してもらって人物は、そのイエス様の命令に従って、その後、イエス様のことを「言い広めた…」と聖書のみことばは教えていません。『言い広め始めた』のです！これは、つまり、この人物が1度や2度ではなく…、残された生涯ずっと、自分のことを救ってくださったイエス様のことを証し続けた、ということです！言わば、宣教です。…いえ、この人物だけではありません。基本的に、イエス様を信じて救われた者は、その救いの恵みと…、福音のメッセージを…、そして、イエス・キリストの捧げてくださった尊い十字架での犠牲とその復活の御業を、もつと多くの者たちに対して、語っていかなくてはならないのです！そうでしょ！皆さん？

イエス様は、今日のみことばに出てくる、病を癒された女性に対して、こうおっしゃいます。34 節、『そこで、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」』って…。この当時、誰も癒すことのできなかつた病を、イエス様が一瞬にして癒してくださったのです。このように、イエス様に対する信仰は、私たちの抱えている様々な問題をすべて解決してくれます。それは、イエス様に対する信仰を持った者がすべて癒されるとか…、どんな問題も、イエス様がたちどころに解消してくださるということではありません。

でも、今日、ぜひ皆さんに覚えていただきたいことは、皆さんが今、抱えておられる問題は、ひょっとしたら…、皆さんが自分の力や様々な工夫によって解決するためのものではなく…、皆さんが、自分の罪深さや限界を知って、真の神様のところへ行き着くように、導かれた結果かも知れません。大切なことは、

私たちが、まず、自分自身の弱さや愚かさを徹底的に思い知ることです。そして、真の神様の前に謙虚になって…、この神様が与えてくださる恵み…、信仰による救いを、あなたが受け取ってくださることでないでしょうか？

Ⅲ・私たちには、**忍耐**が必要である！（35-43 節）

そして、最後に確認していききたいことは、私たちが様々な困難の中にあっても、希望をもって歩いていくために必要な…、“忍耐”であります。どうぞ、今回のみことばの、35-43 節をご覧ください。

35 イエスが、まだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人がやって来て言った。「あなたのお嬢さんはなくなりました。なぜ、このうえ先生を煩わすことがありましょう。」

36 イエスは、その話のこぼれをそばで聞いて、会堂管理者に言われた。「恐れなくて、ただ信じていなさい。」

37 そして、ペテロとヤコブとヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分といっしょに行くのをお許しにならなかった。

38 彼らはその会堂管理者の家に着いた。イエスは、人々が、取り乱し、大声で泣いたり、わめいたりしているのをご覧になり、

39 中に入って、彼らにこう言われた。「なぜ取り乱して、泣くのですか。子どもは死んだのではない。眠っているのです。」

40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなを外に出し、ただその子どもの父と母、それにご自分の供の者たちだけを伴って、子どものいる所へ入って行かれた。

41 そして、その子どもの手を取って、「タリタ、クミ」と言われた。（訳して言えば、「少女よ。あなたに言う。起きなさい」という意味である。）

42 すると、少女はすぐさま起き上がり、歩き始めた。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常に驚きに包まれた。

43 イエスは、このことをだれにも知らせないようにと、きびしくお命じになり、さらに、少女に食事をさせるように言われた。

●すべてのことには、神の **タイミング**（＝神の御計画）がある！

イエス様とその一行が、その 12 年間も長血を患っていた女のことで時間を割かれてしまっている間に、どうとう、会堂管理者のひとり娘が亡くなってしまった！という知らせが入ってきます。しかも、会堂管理者の家の者は、娘が亡くなったことを告げた後で、35 節、『あなたのお嬢さんはなくなりました。なぜ、このうえ先生を煩わすことがありましょう。』と言います。これは、つまり、いくら、イエス様であっても、もう死んでしまった者を生き返らせることはできるはずがない…という意味です。

しかし、それを聞いて、イエス様は、36 節で、こうおっしゃいます。『恐れなくて、ただ信じていなさい。』って…。実は、この個所を、平行記事のルカ 8 章を見ても、もう少し詳しく説明されておりました。『恐れなくて、ただ信じていなさい。そうすれば、娘は直ります。』って…。これは、つまり、言い換えますと、もしも、会堂管理者であるあなたが、「イエス様は、死人でさえも生き返らせることができる！」ということを信じたら、その娘が生き返る…。しかし、もし、あなたが、それを信じられなかったら、あなたの娘は生き返らない！ということであると思われます。つまり、会堂管理者の娘が生き返るかどうかは、イエス様だけの意志によるのではなく…、むしろ、会堂管理者の信仰による！というのです。そういったことについては、マルコ 6 章に記されていますので、また来週の礼拝で学んでいきたいと思えます。

どうぞ、今日のみことばの 41 節以降をご覧ください。そこでは、イエス様が、会堂管理者の娘を生き返らせてくださった話が書かれています。このことから分かりますのは、この会堂管理者は、先程のイエス様のお言葉通り、「このイエス様なら、死人さえも生き返らせることができる！」ということを感じた…ということです。そして、もう一つ…、このことによって、イエス様は、普通の人間ならば絶対に勝利することができる！死に対しても打ち勝つことができる！特別なお方である…ということが証明されました。

今回のみことばを通して、神が私や皆さんに教えようとしてくださっていることは、すべてのことには、神の時…、神様のタイミングがある！ということではないでしょうか？あの「伝道者の書」が教えてくれている通り。…と言いますのは、この会堂管理者は、自分の娘が癒されるために、今にも息絶えてしまうかも知れない、しばらくの時を忍耐して、待つ必要がありましたし…、片や、長血を癒された女の方は、実に、12 年もの間、イエス様にお会いする時を待たなくてはならなかったからです。

でも、そういったことは、私も皆さんも同様です。…と言いますのも、私たちも神様に祈りを捧げた時、その祈りに対する神様の答えは、「待て！」といわれることがあるからです。…でも、それこそが、神のタイミングなのであり…、その時こそが最善であるからです。さますと、私たちはすぐに、自分の考えこそが最善であり…、自分の思うタイミングで、すべての事が成って欲しいと思ってしまうがちです。でも、これまで、私たちが学んできましたように、私たちは神ではありません。私たちが人間は、いつが最善の時なのかも分からないし…、私たちがクリスチャンは、そういったような…、様々な主権を神様に明け渡したはずなのです。そうでしょ？

●神が、私たちに 期待 しておられること？

今回のみことばをご覧くださいますと、そこには、12 年もの間、長血で苦しんできた女が癒された話と、死んでしまった娘が生き返られる！という話が載っております。いえ、今回のみことばだけではありません。それこそ、新約聖書だけでなく…、旧約聖書を見ても…、聖書には、そういったような癒しや奇蹟などで溢れている、と言えなくもありません。

恐らく、そういったことからでしょう。今も、一部のキリスト教会が声を大にしてアピールしているのは、「私たちの教会に来れば、どんな病氣も癒される！だって、キリストは、どんな病も癒されたでしょ！」というようなことが、まことしやかに叫ばれている場合があります。

でも、じゃあ、一体どうして、私たちの教会では、それと同じように…、大々的に、癒しや奇蹟をアピールしないのでしょうか？⇒その理由を、短く簡単に説明しようと思つと…、それは、癒しや奇蹟が、イエス様のメッセージの“メインテーマではない”からです。どうぞ、今日のみことばの最後、43 節をご覧ください。『イエスは、このことをだれにも知らせないようにと、きびしくお命じになり、…』とあります。⇒1 度死んでしまった自分たちの娘が生き返らされたわけですから、会堂管理者の夫婦は、大変驚き…、また、喜んだはずであります。しかし、ここでのイエス様の反応は、一風変わったものであります。何と、イエス様は、「このことをだれにも知らせないようにと、厳しくお命じになった！」というのです。

いいえ、このみことばだけではありません！イエス様は、何度か、そのような癒しの目撃を秘密にするように命じられたシーンがあります（例：ルカ 5:14、マルコ 7:36、マルコ 8:26 など）。もしも…、イエス様の宣教の中心が、癒しであったなら、決して、そういったことはされなかったはずですよ。もしも、イエス様が私たち人間に伝えたいメッセージが、生き返り…、つまり、よみがえりであったのなら、今日のみことばに書かれてあるような、娘が生き返ったという大事な出来事を、イエス様が誰にも話さないように命じられるでしょうか！

私が考えますのは…、今も、癒しや奇蹟を、教会の 1 番の中心メッセージとして語っているような教会は、大事なことを見落としてしまっているということです。それは、2000 年前の、この当ても、生き返らされ

なかった者たちは大勢いたし…、一時的に、癒された者たちもまた、そのすべての者たちがやがては亡くなっていった…ということです。例えば、この時に生き返らされたヤイ口の娘もまた、この時は生き返ったけれども、また、その後で亡くなってしまったのです。

また、それだけではありません…。例えば、イエス様から特別な賜物を与えられた、あのパウロは、人を癒すことができた（使徒 14 章）はずなのに、自分自身が抱えていた、「肉体のとげ」（Ⅱコリント 12:7）を癒すことができなかったじゃないですか。もしも、聖書の中心的なメッセージが、癒しや奇蹟であったなら、そこに矛盾があるように思えます。…そうじゃありません？

しかし、神様が私たちに対して、1 番に願っておられることは、私たちの病が癒されて、私たちが健康に暮らしていくことではありません。どうぞ、Ⅱコリント 12:7-10 をご覧ください。『7 また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体の一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。8 このことについては、これを私から去らせてくださるようにと、三度も主に願いました。9 しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおつために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。10 ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。』

⇒このように、パウロには、「肉体のとげなるもの」が与えられておりました。それが、具体的には、どのようなものを指しているのか、詳しくは分かってはおりません。…しかし、重要なことは、そういった病がパウロには必要だったのであり…、その病がパウロのことを罪から守り…、また、神の栄光を現わすのに一役買っていたということでもあります。

そういったことから、明らかなのは、神様から見た時に、私たちが癒されることよりも、それ以上に重要なことがあるということです！…それは、私たちが罪から守られることであり…、神様の栄光を現わされていくために、私たちが、より輝きを放つ者となっていくこと…、つまりは、私たちがもっとも…、霊的に成長させられていくことのはずなのです！

<励ましの言葉>

確かに、イエス様は多くの者たちを病から癒してくださいましたし…、ある者たちは死から復活させられたりもしました。しかし、それらは皆、一時的なものであったのです。いいえ、イエス様だけではありません。イエス様の弟子たちも…、また、旧約時代の預言者たちであっても同じです。ある時期において、癒しや奇蹟が行われたのは、いずれの時代であっても、神がその者たちを通して、神からの新しいメッセージを語ってくれている時であったのです。それは、イエス様とて同じです。つまり、イエス様が癒しをされたのは、癒しそのものが 1 番の目的であったのではなく…、その癒しが起こったことによって、イエス様の語られたメッセージが、真の神様からの本物のメッセージであるという証しなのです。実に、そういったことのために、癒しは存在したのです。

ですから、今の時代、私たちが、病から癒されることばかりを求めてしまうことは、あまり最善とは言えません。…と言うのは、そういった病や困難さえも、神が最善なるみこころの内に与えてくださっているからです。確かに、神が、みこころの内に私たちの病を癒してくださることだって有り得ます。しかし、私たちが 1 番に覚えるべきことは、神様は、私たちの周りの環境であっても、それらすべてをコントロールしてくださっている！ということです。だから、私たちは、すべてのことについて、感謝することができるのです。…と言うのも、ローマ 8:28 で教えられてありますように、全知全能なる私たちの神様が、「すべてを働かせて益としてくださる…」からです。そのために、私たちは、今日学んだように、①主権者なる神様の前にへりくだって…、②その神様のことを心から信じ…、また、信頼し…、③今、与えられている環境の中で、忍耐と期待をもって、歩んでいくことができるのです。

果たして、今皆さんが信じ…、理解しておられる神様は、すべてのことをみこころのままに御支配なさ
っておられるような、“偉大な神様”でしょうか？…それとも、知らないことがあって、皆さんが、その神様に
なすべきこと…、一番良いタイミングを教えてあげないといけないような神様でしょうか？…どうか、この神
様の前に、へりくだって…、この神様のことを、全き信頼を持ちながら…、忍耐をもって、残された人生を
歩いていってください。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。